

# 第4回中国国際中小企業博覧会 「JAPANフェア IN 広州」 —県内から7社が参加!—



日中国交正常化35周年に当たる今年、日中両国政府の主催による「JAPANフェア in 広州」が、9月15日（土）から18日（火）まで4日間、中国・広州で開催され、県内からは、タイガー産業、トリム、日本マテリアル環境、久米島の久米仙、STルーフ、沖縄長生薬草本社、JHP INCの7社が出展しました。同フェアは、高所得者層を中心とする中国市場への日本

1 過去最大規模の見本市に県内から7社が参加！

製品・サービスの参入、販路拡大などを目的とするもので、本年4月の安倍総理と温家宝首相の首脳会談で、第4回中国国際中小企業博覧会の中での開催が決まったものです。経済産業部では、県内企業の中国における事業展開のきっかけとなるよう、また、進出企業の更なる事業拡大の機会となるよう、同フェアへの出展支援を行いました。



中国ブースの様子。多くの来場客で賑わった。



過去最大の出店規模となった日本ブースの様子。



会場となった広州国際会議展覧中心。面積12万㎡のアジア最大の展示会場。

## JAPANフェア IN 広州

— 第4回中国国際中小企業博覧会 —

■開催地：中国・広東省・広州

■会 期：平成19年9月15日～18日

■会 場：広州国際会議展覧中心

■主催者：中国国家発展改革委員会、広東省人民政府、日本国経済産業省ほか



# I. 「JAPANフェア IN 広州」

## 2 「日本ものづくり大賞」 受賞企業等が参加！

今回、沖縄から出展した企業は、大学と連携しながら、沖縄の伝統的薬草利用の事業化を進める有限会社沖縄長生薬草本社を始め、廃ガラスを原料とする人工の軽石と製造プラントシステムを開発し、県外に向けて販売する株式会社トリム（両社ともに今年度「日本ものづくり大賞」受賞）、総合金物卸商として環境に配慮した商品開発にも取り組み、本土・中国に拠点を構え、国内・海外への販路開拓を進めるタイガー産業株式会社、日米で特許を取得した防水型金属屋根葺材等の製造販売を行うSTルーフ株式会社、廃プラスチックのリサイクル利用を進める日本マテリアル環境株式会社、ナノテクノロジー製品を扱うJHP INC、世界的な食品品評会のモンドセレクションを受賞し、海外へ泡盛を出荷する株式会社久米島の久米仙など、多岐にわたる業種となりました。

参加企業からは、「中国企業との商談が進んだ。富裕層が多く有望な市場だ。」、「中国に進出している日系企業とのネット

ワークを築く良い機会になった。」、「中国ビジネスは容易でない面があるが、潜在需要の大きさを実感できた。」などのコメントが寄せられるなど、参加企業それぞれが、中国市場での手応えを感じたようです。



泡盛を出品した久米島の久米仙のブースには、試飲を求めて多くの人がつめかけた。



県内から参加した企業の様子。会期中、多くの来場者がつめかけ、活発な商談を行った。





## 3 会場の様子

過去最大規模の出展！

日本から422社・37団体が出品しました。出展規模は949小間、展示面積は約2万㎡と、ジェトロが参加・運営した展示会のこれまでの記録を更新しました。（※これまでの記録：北京日本工業・技術展覧会（1975年）362社、600小間、1万7,700㎡）



日本ブースの入口には日本の美しい風景写真が飾られた。

中小企業が多数参加！

同フェアは中国国際中小企業博覧会の中での開催とあって、422社のうち中小企業が308社（大企業114社）と多数を占めました。

また、そのうち中国既進出企業が113社、マレーシア既進出企業が1社となっており、中国市場を初めて開拓する中小企業が多数出展しました。



自動車メーカーのブース前では、多くの人が足をとめた。

高機能・環境配慮型の日本製品をアピール！

出展企業の中には、広州に工場進出したトヨタ自動車や、日産自動車を始め、電気・電子メーカーも松下電器産業、日立製作所、東芝、キヤノン、シャープ、富士通、沖電気、パイオニアなどが勢揃いし、中国で関心が高まり対策が急がれる環境問題に対応した、省エネ、リサイクル、水質浄化などの分野で、

優れた最新技術が多数展示・紹介されました。

日本食品の安心・安全をPR

また、日本産米の小売価格は中国産米の20倍と言われているが、今年7月販売を再開した北京、上海で高い人気を集めております。食の安全問題で揺れる中国で、日本食品の安全・安心がPRされました。なかでも来場者の大きな関心を集めた食品部門では、お米だけでなく、米菓子、健康飲料等に人気が集まり、価格は高くても安全で健康によい日本食品が大変好評でした。



お米を出品した全農ブース前には試食を求めて長蛇の列。



# I. 「JAPANフェア IN 広州」



日中両国の要人が多数出席して開催された開会式。



会期中多くのメディアが取材で訪れた。



ロボットのデモンストレーションを熱心に見入る来場者。



ベトナムブースの様子。会期中、多くの来場者で賑わった。

## 4 フェアの成果

すべてが新記録！

今回のフェアは、来場者数30万5千人、日本の出品規模459社・団体、949小間（約2万㎡）、商談件数約2万4千件と、これまでジェトロが海外で運営した展示会の新記録となりました。

日中が成功にむけて協力

両国首脳が2007年4月合意して日本が主賓国に決定したこともあり、開会式には日本側

から福水健文中小企業庁長官、塚本弘ジェトロ副理事長、中国側から張徳江広東省書記（中央

政治局委員）、朱之鑫国家改革发展委員会副主任、黄華華広東省省長、ほか多くの要人が出席しました。

メディアの関心を集める！

フェアの様子はNHK「おはよう日本」で放映されたのを始め、日経、朝日、読売、フジサンケイビジネスアイ、月刊工業、共同通信、時事通信で報道され、多くのメディアの関心を集めました。また、県内企業の出展は、

沖縄タイムス、琉球新報でも紹介されました。

予想以上の商談成果

業種・企業で商談件数に差があるものの、商談件数は2万4,251件、成約件数・金額は319件・約594万米ドル、また出品企業の満足度は上位2項目（「役に立った」、「まあ役に立った」）で83.1%と予想以上の成果が得られました。広州を中心とする広東省は製造拠点のイメージが強いのですが、展示会を通じて市場の潜在需要の大きさを認識する結果となりました。

## 5 おわりに

沖縄の産業の一層の振興を図っていくためには、新たな事業の創出、新製品の開発等の技術力の強化、効率的な流通と相まった販路の拡大を図る必要があります。

経済産業部では、今回のような見本市、商談会等の活用を始め、各般の施策を通して、引き続き、国内、海外への販路開拓を進める県内企業の取組みを支援していきます。